

## 2018 World Rowing Masters Regatta(Sarasota-Bradenton, Florida, USA) NTO 参加報告書

国際審判員（愛知県ボート協会所属）田畑 喜彦

9月27日から30日、米国フロリダ州 Nathan Benderson Park を会場に 2018 World Rowing Masters Regatta が開催され、NTO（National Technical Official）として参加する機会をいただきました。ここに関係者各位に感謝申し上げ、ご報告させていただきます

FISA 主催の国際大会へはこれまでに日本から多くの国際審判員が ITO(International Technical Official)として参加してきた。本年度は既報のとおり東京都所属の国際審判員山崎佳奈子氏が 2019・2020 in Tokyo での NTO 組織運営を見据え、World Cup 1(Beograd, SRB)に日本人初の NTO 参加を果たしている。今回の私も彼女に倣うべく NTO として参加した。本大会には神奈川県所属の国際審判員松田雅彦氏が ITO として参加、大会概要は報告済であるため、私は特に NTO としての視点から大会準備状況等を含め報告させていただく。

### 1. 事前の連絡

- ① 今大会の NTO Lead は USA の FISA Umpire 資格を持つ Kirstein Meisner であった。NTO 参加の意向を伝えると本年4月頃に彼女から第1報が入り、その時点で参加予定している NTO リスト、参加にあたっての条件（最寄り国際空港から会場までの送迎、宿舎、朝・昼食 OC 負担、夕食自己負担等）が明記されていた。また、大会は27日から始まるものの、25日からの公式練習のマーシャル参加とそれに向けた24日夜開催予定の NTO ミーティング出席の可否を問う物であった。
- ② 第2報はフライトスケジュール、NTO 用 T シャツの確認、顔写真の送付であり、8月末を〆切に要求された。
- ③ 第3報は最初のミーティング案内、NTO の役割を解説した冊子、Control Commission の手順書の要約版（Advertising Rules や選手・艇計量他を A4 サイズにまとめたもの、非常に有益であり10月東京で開催された FISA Exam. 用に受験生にも配布）、ITO、NTO 参加メンバーの顔写真付きリスト等であった。これらの容量は数 MB と大きなものであり、e-mail では送り手、受け手ともに制約があるため Google Drive を利用して配布され、大会時にはこれらは印刷して手渡すとあったが、必要なものは事前に自分で印刷して持参した。

これら資料は大会期間中を通じ大いに活用したが、事前配布により否が応でも大会に臨む心構えを盛り上げるものであった。特に参加メンバーの写真配布はどの大会に参加しても名前を覚えるのに苦労する私にとって大変有益であった。

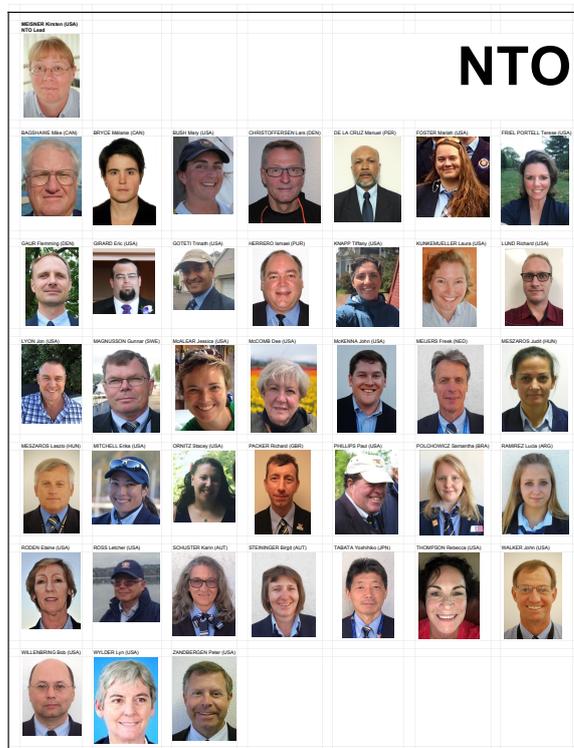


写真-1 事前配布された NTO リスト

## 2. 空港到着時の迎え

- ① 今回の大会参加は中部発 **Detroit** 経由 **Tampa** 空港入りであった。**Detroit** で搭乗前に **BRA** から同じく **NTO** 参加の **Samantha** を見つけ声をかけた（前述の顔写真付きリストにより事前チェックの成果）。**Tampa** 到着後、**NTO** には出迎えの地元 **OC** はおらず、**Detroit** 空港で受信した **NTO Lead** から送られたメールには“空港到着後ブルーのエリアへ向かい、**SuperShuttle** カウンターで手配した車に乗るように”というメールが届いていた。**Samantha** にも同じメールが届いており、それぞれの予約番号が記されていた。**SuperShuttle** は **Uber** のようなシステムでワゴン車がタクシーの替わり、しかも相乗りのため、我々の他に老夫婦が空港より同乗し、途中彼らの家を経由してホテルへ向かった。このため直行するよりも **30** 分ほど遠回りであった。なお、帰路は **Sarasota** 空港へ送ってもらったが、こちらも **Uber** の普通車であった。当然ながらこちらも **NTO Lead** からのメールで迎えが来ることを知った。
- ② **Uber** など **Share Riding** が普及した米国ならではの送迎なのだろうが、これまで参加した国際大会にあったようなボードを貼り出したカウンターや、プラカードを持った出迎えを期待していた者からするとやや心細く感じた。**NTO** 向けにはこの程度で良いのかなと実感したが、**Tampa** は昨年の世界選手権でも訪れていた事、事前に配布された顔写真で **Samantha** を見つけていたためこのような出迎えに対応できたが、一人ではやはり心細いものである。
- ③ この様に事前にメールでの指示、連絡が矢継ぎ早に入ってくるのだが、さらに現地では **NTO** 間での夕食の連絡や翌日の部署配置などに **WhatsApp** が活用された。**LINE** は海外では使えない国が多いため、中国も含め **WhatsApp** が広く使われる。恐らく **2019・2020** においても海外からの **ITO・NTO** の連絡には **WhatsApp** の汎用性が高いだろう。今から **NTO** 向け **WhatsApp** の登録・試行してはいかがだろう。

## 3. NTO 編成メンバー

- ① 最終的に参加したのは **39** 名である、構成は以下のとおり。  
**NTO Lead 1名 (USA、FISA Umpire)**  
**NTO38名、USA23名**うち **FISA Ump.9名、USA 以外 15名 (ARG1名、BRA1名、AUT2名、CAN2名、DEN2名、GBR1名、HUN1名、JPN1名、NED1名、PER1名、PUR1名、SWE1名)**。  
マスターズはレース数が多く、**ITO・NTO** とともに交代制をとるので参加人数は通常の **FISA** 大会より多い。  
それぞれの占有率は、**USA/全体=61%、FISA Ump./全体=56%**であった。
- ② また **USA** 以外から参加した **NTO** のうち、**FISA Ump.** (**CAN** と **HUN** はリタイア) 以外は **PER** の **1** 名。彼は受験年齢ぎりぎり **59** 歳のがけっぶち受験生で、昨年受験に失敗したそうである。本大会は研修での **NTO** 参加、大会終了後はカナダでの **World Coastal** にボランティア参加することだった。
- ③ 以下には事前に **Google Drive** で配布された練習時とレース時に分けた **NTO** の役割表をもとに説明する。

## 4. NTO の部署割り

以下、太字は **ITO** のポジション、細字がそれを補助する **NTO** のポジションである。

## ① PRE-STARTER

### ● Assistant Pre- Starter

- ✓ Starter の後方約 100m に位置する Pre- Starter の横で補助業務を行う。Start Tower と Pre- Start Tower の間には次の 2、3 レースのクルーを待機させる。
- ✓ 今回 C.C、Counting Marshal、Assistant Starter、Assistant Pre- Starter には Tablet Computer が用意され、各ポジションを通過したクルーを入力することによりレースの進行を効率的に行うことが出来た。

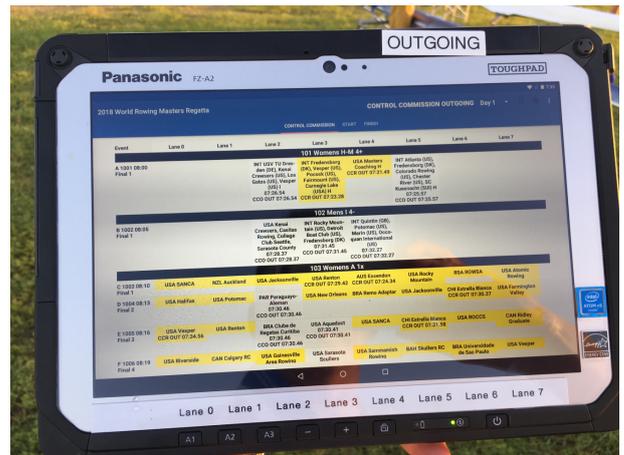


写真-2 配備された Tablet Computer

- ✓ フロリダの炎天下での使用であったが、熱に対する耐性は問題なく、バッテリーも朝から夕方まで充電の必要は無かった。製品の右肩に“TOUGH PAD”とあるが、文字通りタフな信頼性の高い日本製品であった。

### ● Pre- Start Marshal

- ✓ Pre- Start Tower の背面に位置し、Start Tower と Pre- Start Tower への誘導を行う。

## ② STARTER

### ● Assistant Starter

- ✓ Assistant Starter は Starter の補助としてクルーの確認(見当たらない場合は Tablet を確認し、どのポイントを通過したかによって各 Marshal への問い合わせを行う。また Yellow Card の有無を Starter に知らせる。

## ③ JUDGE AT START

### ● Aligner

- ✓ 今回使用したのは 8 レーンである。各レーンにはボートホルダー用とスタートフィンガー操作者用にイヤホン付き無線機が用意された。これはレース間隔が 3 分で Start System に“Clog (と云うらしい。ブーツとも言っていた。)”を使用したため、システムが浮上後速やかに艇のトップを Clog に挿入、押しつける必要がある。また、種目が頻繁に変わる為、スタートフィンガー操作者に速やかに指示を与え、種目が変わることによるスタート時間の遅延を回避する為である。

## ④ UMPIRE 1 (100m)

## ⑤ UMPIRE 2 (500m)

## ⑥ UMPIRE 3 (900m)

- ✓ 主審艇のドライバーは NTO メンバー以外の地元ボランティアが務めた。Static の場合主審艇は艇が通過後コース中央まで進み、蛇行等航跡を確認する。問題が無い場合はコース外へ戻る。
- ✓ 昨年の世界選手権でも Static が採用された。その際に PoJ (President of Jury) の Patrick Rombaut からはくどいほど主審艇はループを描かず真っ直ぐ後退する様指示された。PoJ が位置する判定塔からは主審艇の動きが手に取るように分かり、無駄な動きをすると波を残すことからの指示と理解している。

- ✓ 今回使用した主審艇は昨年の世界選手権で使用されたものと同じカタマラン艇だが、船底の形に特徴があり、船体の割に波が発生しにくい設計となっている。また、救助時に船に乗り込みやすいように梯子が設置されていた。沈をしたクルーを救助す

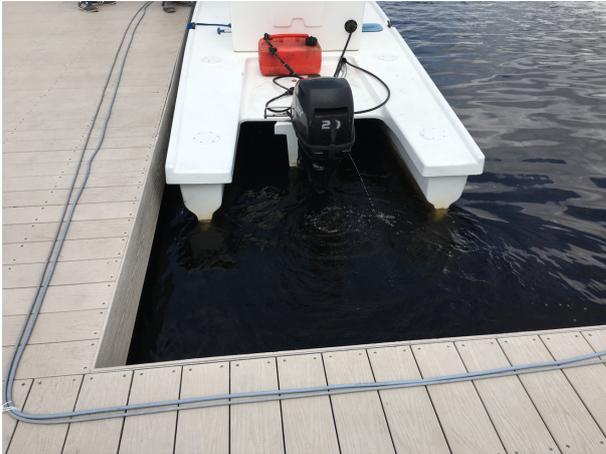


写真-3 主審艇の船底、水浸部分が細くなっている



写真-4 主審艇に配備された梯子

る際に苦労した経験をお持ちの諸氏は多いと思う。このような装備があれば容易にかつ迅速に救助ができる。

#### ⑦ RESPONSIBLE AT FINISH

#### ⑧ FINISH JUDGE

- Finish Assistant
  - ✓ NTO は 2 名配置され、着順の入力とブザーを担当した。R. at Finish は判定席の向こう側に位置し、写真判定装置により着順を確定させる。
- Marshal 9 - Finish Marshal
- Marshal 11 - Return Channel Marshal
  - ✓ 判定塔の屋上に位置しフィニッシュ後の各クルーの帰艇を確認する。



写真-5 判定席

#### ⑨ VICTORY PONTOON

- Victory Pontoon Marshal
  - ✓ レース毎に表彰式が行われるのがマスターズの特徴である。レース結果が判定席から水上の無線連絡され、対象クルーに連絡し Victory Pontoon へ向かうよう指示する。

#### ⑩ RESPONSIBLE AT CONTROL COMMISSION

#### ⑪ CC OUTGOING

- CC Outgoing
- CC Outgoing
- CC Outgoing

#### ⑫ CC RENTAL OUTGOING

- CC Rental Outgoing Pontoon
- CC Hot Swap/Incoming Pontoon

- **CC Hot Swap/Incoming Pontoon**

- ✓ 今大会では栈橋は全部で 6 本用意されており、自艇参加が圧倒的に多いのだが自艇ゾーンとレンタルボートのゾーンに分けられる。
- ✓ 自艇用の出船栈橋 2 本、入船栈橋 1 本、レンタルボート用出船栈橋 1 本、入船栈橋 1 本。
- ✓ なお、“Hot swap pontoon”は一旦水上にでたクルーが修理の為に戻り再度出て行く専用栈橋とされた。

- **Marshal 1 - Warmup Marshal, Bird Rock**

- **Marshal 2 - Warmup Marshal, Bottom of East Basin**

- **Marshal 3 - Warmup Marshal, Middle of East Basin**

- **Marshal 4 - Warmup Marshal, Top of East Basin**

- **Marshal 5 - Feed Marshal, Shore Bank Top of East Basin**

- **Marshal 6 - Warmup Marshal, Top of Warmup Area**

- **Marshal 7 - Warmup Marshal, Middle of Warmup Area**

- **Marshal 8 - Warmup Marshal, Bottom of Warmup Area**

- **Counting Marshal 1**

- **Counting Marshal 2**

- **Marshal 300m**

- **Marshal 700m**

- ✓ **Marshal** の数の多いのもマスターズの特徴と言える。様々なポイントに配置され艇の接触回避や安全面の確保、レースの進行に重要な役割を担う。その中でも今大会で特徴的な部署が **Counting Marshal** (以下、**CM**) である。

- ✓ **CM** は **CM1** が 700m 付近、**CM2** が 0m (線審の背後) に位置し、タブレットを配備されている。**Out Pontoon** で **NTO** の **CC** がクルー名・メンバーを確認し、**Tablet Computer** に出艇時間を入力する。多くの船が出艇するマスターズに特有だが、今大会では途中での通過を 2ヶ所でチェックし入力する。**Assistant Pre-Starter**、**Assistant Starter** が必要に応じてスタート付近に居ないクルーを **CC1**、**CC2** に問いかけると即座に「**CC1** 通過、**CC2** は通過していない。」等を無線に入れる。

- ✓ **CC** を出て **C2** まで来ていない場合で発艇定刻まで時間が無い場合は **Marshal 3** と **CC1** が連携し練習水域とコース間の仕切りの切れ間から当該クルーを下図のショートカットルートよ



写真-6 左側：コース、右側：練習水域、写真奥に CC1 が配置



写真-7 CC1 から見た左側：コース、右側：練習水域



て 6 時出発となった。なお、初日のポートホルダーは NTO 参加していた多くの FISA 審判員が担当した。

表-1 NTO Shift Matrix (事前に Google Drive により配信された)

Name	Tues		Wed		Thurs					Fri					Sat					Sun		TOTAL		
	S1	S2	S1	S2	S1	S2	S3	S4	S5	S1	S2	S3	S4	S5	S1	S2	S3	S4	S5	S1	S2			
Bagshawe Mike	X			X	X		X	X	X		X		X			X	X				X		10	
Bryce Melanie						X		X		X		X		X		X		X				X		8
Bush Mary					X	X	X			X	X	X			X		X		X		X		X	9
Christoffersen Lars		X			X	X	X	X		X	X	X			X	X	X	X		X		X		9
De La Cruz Manuel		X			X	X	X			X	X	X			X		X		X	X		X		10
Foster Mariah	X			X	X	X	X			X	X	X			X		X		X		X		X	11
Friel Portell Terese					X	X	X	X		X	X	X			X		X		X		X		X	8
Gaur Flemming		X	X		X	X	X	X		X		X			X		X		X		X		X	11
Girard Eric	X	X			X	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X		X		X		X	11
Goteti Trinath		X	X		X	X				X	X	X	X		X	X	X	X		X		X		11
Herrero III Ismael		X			X	X				X	X	X	X		X	X	X		X	X		X		10
Knapp Tiffany	X			X	X	X	X			X	X	X	X		X		X		X		X		X	11
Kunkemueller Laura				X	X	X				X	X	X	X	X	X	X		X		X		X		9
Lund Richard		X	X			X	X	X		X	X	X	X	X	X		X		X	X	X		X	11
Lyon Jon			X		X	X	X			X	X				X		X		X	X	X		X	10
Magnusson Gunnar	X		X		X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	12
McAlear Jessica	X			X	X	X	X			X	X	X			X		X	X	X		X		X	11
McComb Dee				X	X	X	X			X	X				X	X	X						X	9
McKenna John		X		X	X	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	11
Meijers Freek		X	X		X	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	11
Meszaros Judit		X	X		X	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	10
Meszaros Laszlo		X	X		X	X	X			X	X	X	X			X		X		X		X		11
Mitchell Erika	X			X	X	X	X			X	X	X	X		X		X		X		X		X	11
Ornitz Stacey	X			X	X	X	X			X	X	X	X		X		X		X	X	X		X	11
Packer Richard					X	X	X	X		X	X	X			X		X		X		X		X	8
Phillips Paul			X		X	X	X	X		X	X	X			X		X		X		X		X	9
Polchowicz Samantha		X	X		X	X	X			X	X	X	X		X		X		X	X	X		X	11
Ramirez Lucia	X		X		X	X	X	X		X	X	X	X		X		X	X	X		X		X	12
Roden Elaine	X			X	X	X	X			X	X	X			X		X		X	X	X		X	11
Ross Letcher	X		X		X	X	X	X		X	X	X	X		X		X	X	X		X		X	10
Schuster Karin	X		X		X	X	X	X		X	X	X	X		X		X		X	X	X		X	11
Steininger Birgit	X		X		X	X	X	X		X	X	X	X	X	X		X		X	X	X		X	10
Tabata Yoshihiko		X		X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	11
Thompson Rebecca	X				X	X	X	X		X	X	X	X		X		X		X		X		X	6
Walker John				X	X	X	X	X		X	X	X	X		X		X		X		X		X	10
Willenbring Bob		X	X		X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	11
Wylde Lyn		X		X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	11
Zandbergen Peter				X		X	X	X		X	X	X	X		X		X	X	X	X	X		X	10
Condiotte Maureen															X	X		X		X	X		X	5
Reiss Clemens					X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	10
TOTAL	14	14	16	15	22	22	22	22	13	21	21	21	21	13	22	22	22	22	13	22	22			

レースは 4 時ころに終了するのであるが、NTO 業務はまだ終わらない。実質は 5 シフト制であり、レース終了後の 5 シフト目は練習クルーのためのマーシャルであり、終了は 6 時。都合 12 時間の勤務である。9 月のフロリダの陽射しはきつく、NTO の厳しさを実感した次第である。

なお、この時期になるとフロリダ半島はサンダーストームに見舞われる事が常態であるため“Evacuation Plan”が作製され、かつ事前にマーシャルを務める我々 NTO にメール配信されていた。図-1 のコースレイアウトと対比いただきたいのだが、リスクマネジメントの観点からよく準備されていると感心した。



写真-8 Lightning Alert

大会期間中、朝 6 時から夕刻 6 時までのシフトはキツイため、何と無くこの“Evacuation Plan”発動を NTO (私だけ?) は心待ちにしていた。日中の酷暑を避け、夕刻練習に船を出すクルーが多いのだが、“Evacuation Plan”が発動されるとコース閉鎖、水上のクルーは直ちに上陸を指示された。文句を唱えるクルーは多いのだが、半時間と置かずサンダーストームが襲来した。水上全クルーの退避を確認してからの Marshall 終了となるのだが、襲雷予測の正確さは見事なものであり、早めの業務終了に救われたものであった。

この際に目にしたのが携帯式の“Lightning Alert”である。Marshall で同乗した地元ドライバー

が所有していたが\$20程度との事であったが、警告音が鳴ると、その後に遠くで雷鳴が聞こえ、発生地点からの距離がわかるという優れものであった。



## Nathan Benderson Park

2018 WORLD ROWING MASTERS REGATTA  
SEPTEMBER 27-30, 2018

TRAINING TRAFFIC PATTERN - **EVACUATION**

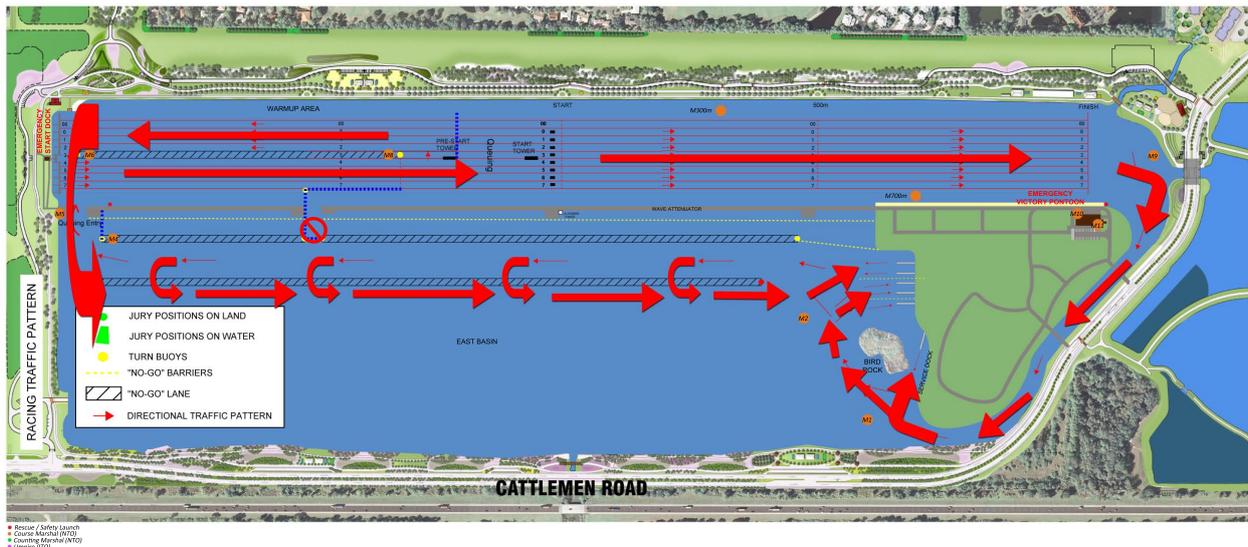


図-2 Evacuation Plan(Training)

## 6. Accommodations

### ① 送迎

今回の送迎は前述のとおり、空港～ホテル間は足は手配するが各自で責任を持つというスタイルであり、それに対し不服を唱える者は皆無であった(と思われる)。権利・義務がはっきりしている米国だからの対応かもしれないが、一定の配慮以上は個人の責任範囲との割り切りと言えなくもない。

日本の”おもてなし”はどこまで担保するのか、国際標準は?と考えさせられる対応である。特に **NTO** は自らが”志して”参加するものであり、地元 **OC** の負担にならないように参加するのが常と皆意識しているのではないかと考えさせられた。

### ② 相部屋

事前の **NTO Lead** からのメールでは、まず同伴者の有無と個室希望するかを問われた。同伴者を伴う場合、個室を希望する場合は追加費用も明示されていた。私は単身、相部屋希望で希望を出すと前述第3報で部屋割りまで送られてきた。このような事前の資料配付はこれまでの海外レース参加でもなかなかない事であり、相部屋の **CAN** からの **Mark Bagshaw** って誰だったかなと事前のリサーチができた。彼は北京オリンピックで審判を務めており、すでにリタイアしているが、昨年の **SARASOTA** での世界選手権にも **NTO** 参加している。今回の **WRMR** でも連日 **CC** に固定の **NTO** として彼の経験を惜しむ事なく **ITO**、**NTO** に伝えていた。

彼からは部屋での会話や持ち場での会話を通じ、**CAN** における審判員育成制度や様々なボ

ートに関する思いを聞かせていただくことができた。親日家であり、2020TOKYOにも NTO 参加を希望している。こんな彼であるが、何度か食事を共にした時に聴かされたのだが、残念なことに絶対刺身、寿司は受け入れないとの事であった。

### ③ 夕食の割り勘

今大会の NTO は夕食は自己負担という前提であった。大会期間中、ITO/NTO の BBQ が開催されその際は招待されたが、それ以外は WhatsApp による NTO 間の連絡網により近郊での食事をする事となった。もちろん希望しなければそれは自由である。

USA、欧州を中心とした 20 名くらいのメンバーと夕食に出かけた際、欧米スタイル？という場面を経験した。各自、食事飲み物（アルコール含む）をオーダーし、2 時間くらい楽しんだ後会計となった。どう会計するのかとなった段で USA の幹事役から個人毎に精算する旨宣言された。私はたまたま現金を持っていたため現金精算同士で一括してスムーズに終わったのだが、20 人の大半 15 人以上がカードであった。各人がオーダーした内容についてチェックし、カード精算のたびにレジスターを通していたため、一連の精算作業に 30 分ほどかかった。彼らは当然のごとくこの時間を受け入れていたのだが、欧米人ってこんなに待つことに寛容性有るの？遅かれ早かれここにはスマホのアプリを使った新たなビジネスが生まれるのではないかと予感している。

## 7. 施設

いよいよ施設に触れる時間がやってきた。ここ、SARASOTA は昨年の世界選手権で訪れているためその際の“世界選手権標準”と“世界マスターズ標準”に触れたい。

### ① 判定塔

恐らくここ SARASOTA-BENDERSON(会場名は Nathan Benderson Park)を語る上で判定塔は象徴的な建造物であろう。昨年の WRC、本年の WRMR、そして来年の WRU23 と 3 年連続して世界の漕艇会の舞台となるこの地の判定塔は文字どおり USA ROWING の金字塔となるはずで有る。難点を言うと、米国の防犯上の制約であろうか外に通ずるドアは全てオートロックで一旦閉まると外からは開けられない。エレベーターは大きなものが 1 機で待ち時間が異常に長いなど。日本人的発想では小型 2 機の方がはるかに機動性に優れると思うのだが。これは 2005 年に長



**Stottlemeyer's Smokehouse**  
Barbecue · Family Style · Bar & Grill

## ITO/NTO Southern Bar-B-Q!

**You are invited to a joint ITO/NTO Dinner**

**When:** Thursday September 27, 2018 from 6:30 – 9:00 pm  
**Where:** Stottlemeyer's Smokehouse where classic Bar-B-Q meets old Florida  
 19 East Road  
 Sarasota, Florida 34240  
 +1 (941) 312-5969  
 Located one mile east of I-75 off of Fruitville Road

**Attire:** Casual and comfortable!  
 Stottlemeyer's is an open-air restaurant, live music venue, and old-Florida tiki bar

**Menu:** Southern Bar-B-Q Buffet and soft drinks  
 A no-host bar is available should you wish to purchase alcohol

**Logistics:** Please contact your ITO/NTO Lead the day of the dinner for details on transport to and from Stottlemeyer's.

**We look forward to seeing you!**



図-3 Bar-B-Q Invitation Card



写真-9 判定塔には 3 大会のシンボル旗が

良の世界選手権にも同様の設計思想が反映されていることでもよくわかるのだが、**FISA Manual**に従うのがベストではないと言う一つの証左では？

## ② 観客席

この会場には常設のスタンドはない。州政府の予算の問題と聞いている。昨年の世界選手権開催時には仮設のスタンドが設けられていたのだが今年の **WRMR** ではさらにスケールダウンしていた。右側 2 枚の写真を見比べていただきたい。昨年と今年の状況を比べたものである。ほぼ同じアングルでの撮影と思うのだが、あっけないほどの規模である。なお、今年はフード類が充実していた、と思う。

## ③ バウ・ナンバー

**WRMR** では 3 分間隔でのレースの為多くの艇が同時に水上に繰り出す。その識別にはアルファベット(A-Z)と数字(1-8)が使われるのだが、今大会で難儀したのがアルファベットの見難さであった。特に"l"と"J"、"O"と"Q"は **CM1** を務めた際には双眼鏡が手放せず、もう少し見やすいフォントにして欲しいと感じたものである。



写真-10 昨年の観客席（仮設）



写真-11 今年の観客席（白いテント下）



写真-13 バウナンバー（Juliet 3）



写真-12 多くの飲食関係出店

## ④ トイレ

報告書もようやくここまでできました。海外大会参加時には毎回仮設トイレを報告しているのだが、今大会では昨年の世界選手権同様、空調付きのトイレ、シャワールームを想定していた私の期待を裏切ることなく大型トレーラーによる施設が設置されていた。

汚染水はトレーラーからの端末を周囲に設置された下水処理施設へと繋がるバルブにつながり込んでいた。会場にはこのようなバルブ端末が多く配置されており、施設設計・施工時にこのような下水処理計画が配慮されている。昨年は気付くことがなかったのだがこのよう

な大型施設では使用水量も大量となり、タンクだけではたちまち汚染水が溢れる。そういえば洗浄水なども確認は忘れたが恐らく水道水の端末がいたるところに設置され、そこから給水しているのだろう。



写真-14 トレーラー外観 (トイレ)



写真-15 シャワールーム

## 8. 最後に

① 繰り返しになるが、今回の **NTO** 参加に際してリアルタイムに多くの情報が共有化された背景には米国発祥の様々なツールが効果的に利用された。電子メール（今時、このような言い方はしない？）はもとより **Google Drive** と **WhatsApp** の米国における汎用度は“半端ない”という表現が最適である。

2019・2020 に向け関係者間で情報のリアルタイムによる共有化を図る上で、どのようなツールを選択するべきか、そろそろその選択する時期にきている。



写真-16 男性用トイレ内部

② 今回、米国でのマスターズに **NTO** として参加させていただいたのだが、アジアからは唯一であり、これまでに参加した **ITO** としては経験することのなかった様々な体験が出来た。**NTO** 慣れた欧米の審判にはアジアからの変わり者と映ったかもしれないが快く受け入れてくれた米国 **OC** と審判のみなさんに心より感謝を申し上げたい。 以上



写真-17 判定塔と Tiffany



写真-18 ほぼ勢揃いした NTOs。前列左から 5 人目が NTO Lead の Kirsten